

木枯らし一号も吹き、いよいよカシミアの本番の季節が来ました。UTOはこの秋から25周年目に入りました。UTOの本と、宇土の本が幻冬社から出ました！

題名は、「中小製造業 逆転のブランディング」宇土 寿和・著 幻冬舎
小説、「頑張れ！大風呂敷旅行屋」宇土 寿和・著 幻冬舎。
十一月十八日、全国の書店及びアマゾンなどのネットでも発売です。

ウエブサイトも全面リニューアルしました。
UTO Kitakami もこの秋から本格始動です！



【賑わいの工場見学会】

浅田真央ちゃんの来場以来、工場のみならず外部からのお客様に少しずつ慣れてきました。今までお断りしていた、工場見学会を少しずつ受けけるようにしました。
北上市を始め、商工会の方々の受け入れをし、10月15日(土)にUTO主催で一般の皆様へ呼びかけ、実施しました。



【UTO Kitakami 本格始動】

ウエブサイト全面リニューアルを機に、UTO Kitakami を充実させました。
最高級のカシミアを少量ながら、量産する事で品質に対しては相対リーズナブルの価格で販売することが出来ようになりました。
工場を維持するうえでUTOと、UTO Kitakami のバランスが重要だと感じています。

【中小製造業逆転のブランディング 宇土寿和 著】

消費者の購買意欲をかき立てる製品ブランディングの秘訣
ビジネス書として、幻冬舎親書で発売されました。



【頑張れ！大風呂敷旅行屋 宇土寿和 著】

熱く前向きな青年と、常識破りの旅行屋達の葛藤と挑戦の日々を描く。注目の青春ビジネス小説。



【青山・表参道境界】

UTOはこんな街から発信しています

乃木坂は乃木神社が出来たから

でもこの頃は、やっぱり乃木坂46でしょう！

出来ました。

1980年から1990年まで乃木神社のすぐ近くの会社にいたので時々お昼休みに本陰でお弁当を食べた思い出があります。
ここは明治の時代、日露戦争で有名な乃木将軍が住んでいたところで、住居が残されています。乃木将軍は明治天皇がお亡くなりになった時に夫婦でここで殉死したそうです。

歴史上の人物はその時代によってかなり評価が変わりますが、乃木将軍は国が神社を作ったのですから相当の評価があったのでしょう。
原宿に東郷神社がありますが、東郷平八郎は今でも日露戦争日本海海戦の英雄として著名です。なじみがありますが、同じ日露戦争で乃木希助は陸軍の指揮官として203高地の悲惨な戦いで多くの犠牲者を出したそうですので、何がそんなに評価されたのか僕の知識ではあまりよくわかっていません。

馬小屋が並んでいますが、今の時代になると車の車庫みたいなものでしょうか。随分たくさん馬が居たんだと思っただけです。
乃木将軍が生まれたのは六本木ヒルズのある毛利屋敷でそこは長州藩の分家の長府藩上屋敷だそうですが、同じ毛利の本家の中屋敷がすぐ近くで防衛庁の跡地です。ここには東京ミッドタウンが

この頃若い人は乃木坂と云って乃木希助を想像する人はあまりいないでしょう。
乃木坂と云ったら、乃木坂46でしょう。
2001年に地下鉄千代田線の乃木坂駅の角にソニーミュージックが出来て様子が変わったように思います。
ここからAKB48に対抗した少女グループの乃木坂46が結成され乃木坂が全国的にポピュラーになりましたね。

10年間、このすぐ近くの会社に居ましたが、そのころの乃木坂は地味な処でした。
今はソニーミュージックのビルがありますが、あんな神社の前の坂の途中にビルの出来るスペースがあったなんて想像もできません。当時は乃木坂のトンネルもなく青山側で道路が無くなっていました。
この道は戦前に皇居と明治神宮を結ぶ御幸道路として計画されましたが、なかなか進んでいませんでした。今はすっかり整備されて、あつという間に通り抜け、乃木坂から赤坂まで続いています。
乃木坂駅も反対側の国立新美術館直結の出口が出来てますます便利になりました。



カシミア100% 天使ネック・ウオーマー・リバーシブル



1312-3283 ¥21,600 税込

貴方の首元に天使が宿ります

天使のストールをネックウオーマーにしました。さらに裏表を色違いにして、リバーシブルにご利用出来ます。折り返しから覗く配色がとってもお洒落。

カシミア100% クルーネックミディアムスキニーPO



1112-1310 ¥38,880 税込

ほっそりに見えるシルエツトを追求したセーター。脇下から縦にかけて自然につぼまる設計とちょっと広めの前開き。裾リブ、袖リブを狭くしたスッキリタイプのつくりでまさにスキニー！

カシミア100% クルーネック・ラグランPO(メンズ)



11212-1284 ¥42,120 税込

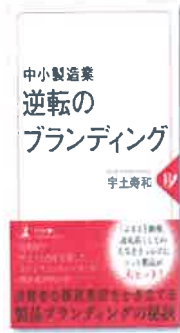
カシミアではめずらしいカジュアルタイプのラグランスリーブ。

ラグランのポイントは何と言っても抜群の動きやすさです。有りそうでなかなか無いセーターです。

カシミヤとニットの話 * (五十五)

2冊同時出版・宇土寿和・著・幻冬舎より

中小製造業 逆転のブランディング



頑張れ！大風呂敷旅行屋

ニット屋になって三十五年が経ちますが、その前は旅行屋でした。七〇年代、まだ海外旅行が夢の時代になっても外国に行きたくて最初に就職したのが旅行屋でした。当時、欧米への旅行費用は新人社員のほぼ年収という頃ですから、海外への観光旅行なんてほとんど無い時代です。海外に行く大義名分を立てて、大手旅行社にも出来ないような旅行を作ることと接客をしていました。

新参者の、ないないづくしの若者達が海外旅行の会社を立ち上げた経験はその後の人生の大きな糧になりました。何時の時代も改革をするのは、『よそ者、若者、馬鹿者』と言いますが、そんなバカがいなくて新しい会社も産業も生まれません。新しい会社が二〇年生き残るのは常々千社に三社と言われます。我ながらその三社として良く生き残ったと思います。といつも生き残っているだけだと思いますが。

旅行も起業も、しなくてもいい苦勞をわざわざ自分からやるようなものかも知れません。嬉しいこととありますが殆どは苦勞ばかりでした。でもその分、生きて来た充実感みたいなものもあります。

第一章：... 高品質なのに低価格・シリ貧状態に追い込まれる日本の中小企業
第二章：... 消費者は「モノ」ではなく「ブランド」に対して財布を開く
第三章：... 少ない生産量、限定された産地：「弱点を逆手にとる」ことで独自のブランディングを実現する

第四章：... 広告展開・メディア露出に頼らずにニット商品を生み出すEC時代のPR戦略とは
第五章：... 機能性、品質以外の付加価値を生み出すことと、「製造業」逆転の条件



この小説を書きながら、今の時代と比べると七〇年代はあんなに不便だったんだと思ひ出しました。IT技術の進んだ今に比べ、若い人になれば随分遅れた話かも知れませんが、たった四〇年前のことです。

大病



結婚してもう43年が過ぎました。僕の人生の一番の当りはカミさんだと思っています。この貧乏会社を必死に支えてくれたカミさんですが、結婚以来、2日間寝込んでからは今まで2回しかありません。全くの不死身なんです。

我が家では病院といえどもつばら僕の方ですが、あまり内科系の深刻な病気はありません。風邪程度はしょっちゅうですが、他は、腰痛とぎっくり腰、足の骨にヒビが入った、尿管結石、歯痛という痛い事ばかりです。

10月20日過ぎ頃、そのカミさんが、夕方からお腹が痛いと言いました。「云わなかったけど以前から痛かった」と、言います。その夜はお腹が痛いと言いつつ起きてくる様子でしたが、翌朝ひどい血便で仰天しました。土曜日といえども急を要するほどで病院に駆け込んで診てもらいますが、すぐに大きな病院へと言ったので、三田の済生会中央病院を紹介されました。救急車を呼びましたか？と言われても、「TAXIで行きます」というカミさんを乗せて駆け込みました。

診断の結果は大腸の腸癌。それに大腸の奥に癌があるということで青ざめました。即、入院で「詳しく調べてみたい」と言うことですが、今まで40年以上も病院知らずで過ごしたカミさんが癌の緊急入院。最悪の死まで頭に浮かび、まんじりともしない数夜。子供のいない43年間の夫婦は、お互いになくはならない存在で、人生そのものだったと自覚します。

以来一週間、義姉がほぼ毎日病院に通い付きりて面倒をみてくれました。こんな時男はオロオロするばかりで全く役に立ちません。一人暮らしになった男はかえって病人と付き合いに気を使われるだけで足手まといの存在と知りました。

手術当日も先生にご挨拶する程度で、仕事にはならないと思ひながらも会社に出て結果を待つばかり。5時間近い手術が終わり、「無事終わって、先生も成功したとおっしゃっている」という義姉からの電話に力が抜けるような安堵感でした。

不幸中の幸いとはよく言ったもので、腸癌で緊急入院という本当にぎりぎりのタイミングで手術をするこが出来たことは幸運としか思えません。手術で腸癌の痛みもなくなればそれこそ一石二鳥です。

今、なんとか復帰して、会社であれこれ指図する様子に悪夢から覚めた気分です。それにしても、担当の先生を始め病院のみならず、義姉や妹に、改めて感謝感謝です。

世界のホテルを旅する(五十五)

元 旅行屋のお勧め 上高地・長野

上高地 帝国ホテルは少年のころから長年憧れの場所でした。大人になって、その憧れの地で一番贅沢な、なにもしない時間を過ごしたのは至福の時間でした。

山にかかる雲。木々の揺らめき。小鳥達の囁き。梓川のさざめきに耳を凝らしたり、備え付けの望遠鏡で穂高と格闘する登山者を追いかけて。これぞ贅沢の極みで一日中ここでも飽きません。

がっしりとした石組みの土台に木造の建物と落ち着いた赤い色の三角屋根のスイスシャレー風と高ばれる上高地帝国ホテルが、穂高岳を背景にした姿は上高地のシンボリック存在で、私の山岳ホテルのイメージの原点です。

自然の中の人造物はあまり好きではありませんが、このホテルは上高地の自然と調和して大好きです。上高地での楽しみは何と言っても歩くこと、ホテルの手から歩き始めて、梓川の河原に広がる田代池の湿地を、岩魚を捜しながらのんびり歩き回る。上流から流れてくる獲物を自分のテリトリーで待構えている岩魚の行動を眺めていると、なんだか釣りをしている気分になってあつという間に時間は過ぎてしまいます。

また、寝転んで流れて行く雲を眺めていると、山々や木々、自分までも動いているような感じがします。眠気が襲ってきたら時間を動かせずにひる寝を楽しんでもいい。うだるような下界の暑さと思うと、最高に贅沢な昼寝です。

大正池まで下りてきて、カマと遊んだり、ポートの上から穂高を堪能したら、帰りは梓川に沿いに散歩。今度は木々の間や梓川の流れる上から穂高が見え隠れします。登山者には見向きもされないコースです。

実際自分も若い頃は一刻も早く高みに行きたくて、こんな処でフラフラすることは考えられませんでした。今ではリソートとしての上高地を最高に楽しめる大好きなコースです。

天気が悪かったら、大きな暖炉のあるロビーで、日がな読書で過ごすのもいいし、お喋りで過ごすのもいい。久しぶりに友人に絵巻でも書いて貰ってやるのもいい。葉書を書いている時は、友人とお喋りしている時間だから、ロビーに漂うコーヒーの香りや暖炉の煙のほのかなにおい。決して不快ではないが、山の中にいるとあらゆる感覚が敏感になるような気がします。

上高地にいくといつも頭に浮かぶのが登山電車。松本から新島々まで松本電鉄。そこから車両厳禁にしてスイスアルプスを走っているような登山電車が出来たら良いな、とずっと思っています。

